



被害状況

3月23日現在

3月11日、白河市を襲った大きな揺れは、本市に大きな被害をもたらしました。ここでは、3月23日現在での被害状況をお知らせします。

3月11日午後2時46分。大きな地震の揺れが襲った。

人的被害

死者・・・15人
(うち3人、西郷村在住)

建物被害

□住家（現実に居住している建物）

全壊・・・22棟
 半壊・・・120棟
 一部損壊・・・1,272棟

□非住家（住家以外の建物）

全壊・・・34棟
 半壊・・・131棟
 一部損壊・・・235棟

このデータは、震災にかかる建物被害の概況を早急に把握するため、市職員が現地調査により、建物の外観を目視する方法でまとめた数値です。今後実施する建物被害認定調査による数値とは異なることがあります。

公共施設被害

道路・・・267箇所
 橋りょう・・・31箇所
 下水道・・・182箇所
 公園・・・20箇所
 市営住宅・・・3棟(55戸)



△災害対策本部会議では、ライフラインの早期復旧や市民の不安解消など、様々な課題について話し合いが行われています



△災害本部長として陣頭指揮をとる鈴木市長

白河市長 鈴木和夫

市長コメント

市民に笑顔がもどるために。

3月11日14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0という国内観測史上最大規模の地震が発生しました。福島県、宮城県、岩手県を中心に死者・行方不明者あわせて2万人を超える戦後最悪の自然災害となりました。本市におきましても15名の尊い命が奪われ、また家屋の倒壊や道路の陥没、歴史的シンボルである小峰城の石垣が崩れるなど、大きな被害を受けました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様方に衷心よりお見舞い申し上げます。

市民の皆様には、水道やガスが使えず、通信が途絶え、さらにはガソリンや灯油など生活物資が不足するという混乱と不自由のなか、余震の恐怖と戦いながら沈着冷静に行動していただいておりますことに深く感謝申し上げます。

また、災害の復旧や生活の支援にあたり、自衛隊、警察、消防団、町内会、建設業関係、ボランティア等の皆様方には献身的なご支援ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さらに、姉妹都市である桑名市、行田市をはじめ、板橋区、戸田市、沼田市、都留市など全国の都市からいち早く救援物資等が届けられるとともに、東京ふるさと会等、市内外よりご厚志をいただきました。自治体同士の連携の心強さと、故郷を思う尊い志に感謝申し上げます。

おかげさまで水道やガスもほぼ回復し、ガソリン等の燃料も行き渡りつつあります。また、特に皆さんが心配されている住宅につきましても、市営住宅の幹旋や仮設住宅の建設を進めるとともに、民間アパートの借り上げを行ってまいりたいと考えています。

一方、福島第一原子力発電所の事故に端を発した風評被害は深刻です。特に丹精込めて生産されている農家の方々の心痛は大きく、やり場のない憤りで一杯のことと思います。このさき、清らかな「白河」のイメージが損なわれることのないよう、いわれなき風評を国と東京電力が責任をもって払拭し、必要な補償を行うよう強く訴えてまいります。

ソニーのハワード・ストリングア会長は、今回の惨事に際し、「日本にはどんな事にも決してあきらめない不屈の精神」があり、この難局を必ず乗り越えると信じている」と記しています。

関東大震災や阪神大震災のときも、人々は助け合い、力強く復興を遂げてきました。苦しく困難な時こそ支え合い、力を合わせることで乗り越える必要であり、このことにより、人が本来持っている、立ち上がる力とする力が湧いてくるものと思います。

「被災した人々が決して希望を捨てることなく、身体を大切に明日からの日々を生き抜いてくれるよう、また、国民一人ひとりが、被災した各地域の上にこれからも長く心を寄せ、被災者と共にそれぞれの地域の復興の道の手を握り続けていくことを心より願っています。」

天皇陛下が被災者と国民に向けて寄せられたメッセージの一部です。災いを転じて福となし、白河市の復興に向け、力強く、市民一丸となって進みましょう。

震災を乗り越えて

Mayor comment